

「礼拝賛美」「イエスの血潮で」

(★↓※↓★の順序で歌う)

★イエスの血潮で 救われ いやされ

天の御国へと 導かれる

イエスの血潮で 赦され 満たされ

尊い その血潮で

※天の父と こひつじイエス

ひざまずき歌う 聖なる御名

全地は歌う あがないの歌

栄光は主にあれ

「ミャンマー地震」 日が経つにつれて、

日本での報道も段々と少なくなっています。

内戦中で国情が不安定であることな

ど、情報が届きづらい状況があります。

しかし、現地ではまだまだ極めて厳しい状況にあることがクリスチャンのネットワークから伝えられています。

■現地のあるクリスチャンフーカーから二ユースレターが届き、今の様子が書かれています。

ミャンマーは国が貧しく、瓦礫を撤去するための重機がありません。おもに民間の団体や被災した人々が手作業で行っています。助けを求める人の救助もままならず、多くの人が命を落とし、その数は1万ともそれ以上ともいわれます。

毎日が40度の猛暑です。火葬場はいっぱいで、外で火葬する人々もいます。

国情が不安定で被災地に向かう救援隊を国軍が阻止したという情報もあります。救援隊の中に反対勢力が紛れ込むのを疑っているからかもしれません。通信状態も悪くて地方の様子は分からない状況です。特にザガイン州が救援が入りにくい状況で、食べ物も水も不足しています。

■日本福音同盟（JEA）を通じて、「ミャンマー福音同盟」から祈りの要請が届いています。

- ① グリーフ（深い悲しみ）の中にある人々に主の慰めがあるように。
- ② 負傷した方々の回復のため
- ③ 避難場所にいる方々に必要な物資が届けられるように。
- ④ 支援者のために。特に、「ミャンマー福音同盟 災害支援チーム」のために。
- ⑤ 復興と希望のために。ミャンマーの人々が希望と力を見出せるように。
- ⑥ 霊的な励ましとリバイバルのために。
- ⑦ ミャンマーの平和と安定のために。
- ⑧ 教会のために。ミャンマーの諸教会が互いに協力して苦難の中にある人々に効果的に応えることができるように。
- ⑨ ミャンマー福音同盟のために。ミャンマー教会のリーダーが一致できるように。

蒲田シオン教会では、支援献金を送金して現地の必要に応えます。

No.2 2025・4・13

「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」

マタイの福音書 20章 28節

レントの最後の1週間、受難週に入りました。今日の箇所にはイエス様が十字架にかけられる前、弟子たちの足を洗った「洗足」の出来事（三面参照）が書かれています。

イエス様がされた足を洗うという行為は当時奴隷のする仕事でした。ペテロの反応を見て分かるように、本来であれば先生が弟子の足を洗う事は考えられませんか。しかしイエス様は弟子たちの足を洗うことで、「自身」が弟子たちを極みまで愛している事を示されました。その愛は今の私たちにも注がれています。

洗足の出来事が象徴しているように、イエ

ス様の愛は「仕える」愛です。神であるイエス様が人となられてこの地上にいられたこと、そして私たちの罪のために十字架にかけられた事。この一つ一つが私たちに仕えてくださったイエス様の愛の表れです。イエス様の「仕える愛」とは自分の身分を捨て、権利を捨て、相手の最善のために尽くす事です。そこには神の忍耐深さも見ることができま

す。

イエス様は15節で「あなたがたもするよう」に模範を示した」と弟子たちに語ります。イエス様を信じる私たちも、「仕える愛」をもって互いに愛し合って生きていくという事

です。それは神に対しても、人に対しても仕えることを意味します。神の前にへりくだり仕えていく、また人に対しても上からではなく、謙遜な思いをもって仕える。この事を通して私たちは愛を示していくのです。この使命はクリスチャン個人に与えられているものであり、同時に教会に与えられているものでもあります。

私たちの仕える愛は、イエス様の十字架の愛が源です。私たちがイエス様の愛を受け取り続け、イエス様との関係を築いていく時に神を愛し、人を愛していくことが出来るのです。この受難週の時、私たちに仕えてくださって十字架にかけられたイエス様の愛をもう一度思い起こしたいと思えます。その愛を私たちは受け取り、神と人に仕えて愛を示していく歩みをいたしましょう。(林)

4月13日	パームサンデー聖日礼拝
小礼拝	9時 林伝道師
聖日礼拝	11時 林伝道師 榊原姉
前奏	
招詞	ゼカリヤ書2章13節
会衆賛美	聖歌25 御神の愛をば
会衆賛美	イエスの血潮で
主の祈り	
交読	イザヤ書53章1〜12節 (旧約聖書1258頁)
礼拝祈禱	
使徒信条	
聖書朗読	ヨハネの福音書 13章1〜15節
説教	仕える愛 (新約聖書 211頁)
会衆賛美	聖歌111 われいのちを
献金	
頌栄	聖歌376 父御子御霊の
祝福	
報告	
感謝祈禱	奏楽

【招詞 (主の招きのことば)】	ゼカリヤ書2章13節「すべての肉なる者よ、主の前で静まれ。主が聖なる御住まいから立ち上がられるからだ。」アーメン
【本日の予定】	
■会堂清掃	礼拝後
■会長会	10時15分〜 談話室
■小学校ホザナ礼拝	11時〜 3階
お話 萩野牧師	
■バイブルカフェ	10時15分〜 談話室
■イースター賛美練習	13時15分〜 14時45分 礼拝堂
■役員会	15時〜 16時半 牧師室

【本日の礼拝奉仕者】	
■小礼拝・オンライン配信	
担当	林伝道師
報告	萩野牧師
会場	萩野牧師
配信	配信チーム
■聖日礼拝	
礼拝祈禱	
聖書朗読	
献金1階	
2階	
献金祈禱	司会者
報告	萩野牧師
会場	
受付	
パワポ	パワポチーム

【本日】
「パームサンデー」(棕櫚の聖日)

今年は3月5日よりイエス様の十字架を覚える「レント(受難節)」の期間を過ごしてきました。そして今週が、イエス様が十字架に架かられた週を記念する「受難週」です。イエス様は金曜日に十字架に架かられました。その週の初めの日すなわち日曜日にエルサレムに入場したと聖書は伝えていきます。群衆が棕櫚の葉を道に敷いてキリストを迎え入れたことから「棕櫚の日曜日」「パームサンデー」と呼ばれます。今年は今日がその日です。

しかしイエス様を自分たちの王として喜び迎えた群衆は、わずか数日後には祭司長たちの煽動でイエス様を十字架につけると叫びます。彼らは罪人の象徴的な姿です。自分たちの都合によれば受け入れ、そうでないと排除する。その身勝手な姿に、人間に共通する罪深さを見ます。そんな私たちのために主は十字架に架られました。

十字架に関連する出来事を他人事として見るのではなく、自分と向き合いながら思い巡らしましょう。

■聖書豆知識
福音書はパームサンデーから十字架、そして復活と続く1週間の出来事に非常に多くの紙面を割いています。章の数でいえば、マタイ、マルコ、ルカは三分の一から四分の一、ヨハネは約半分をあてています。

*福音書の受難週・十字架・復活
マタイ 21章〜28章
マルコ 11章〜16章
ルカ 19章〜24章
ヨハネ 12章〜21章



■受難週祈禱会
4月17日(木) 午前10時半〜
担当 萩野牧師

受難週の木曜日は「洗足の日」と呼ばれます。イエス様ご自身の愛をあますところなく示すために、弟子たちの足を洗った日で、その後に聖餐が行われました(ヨハネ13章)。私たちも主の十字架を覚えて受難週祈禱会で聖餐を行います。

【次週 4月20日】
「イースター礼拝」
《説教》萩野牧師
ヨハネの福音書20章19〜31節
「平安があなたがたにあるように」

■小礼拝 午前9時
オンライン配信

■聖日礼拝 午前11時
・洗礼式(1名)
・特別賛美
イースター特別賛美チーム
曲「御名を掲げて」
「キリストは生きておられる」

■小学校礼拝 午前11時半〜 3階
お話 林伝道師
礼拝後はエッグハントを行います

※ホザナ会は聖日礼拝に出席。

・小礼拝、聖日礼拝共に、来会者にはイースターエッグをプレゼント
・午後は各会例会 主の十字架と復活によって私たちは神の家族の交わりに入れられています。主にある交わりを楽しみましょう。

